

*「ポレーシェ」とは チェルノブイリ付近の湖沼低地帯をいう



動きはじめた

「フクシマ菜の花プロジェクト」

新しい年が始まり、2011年3月11日の東日本大震災、そして、東電福島第一原発の崩壊事故から、丸3年が経とうとしています。

「もう3年」が過ぎるといふのに、原発事故の終息そして除染は、遅々として進まず、汚染水はあふれ続けています。

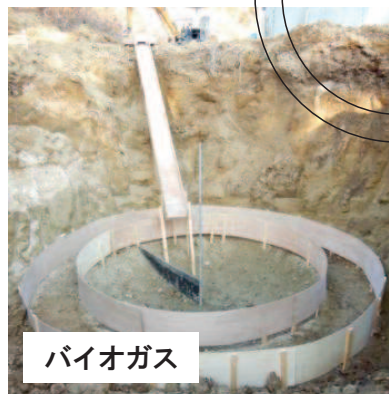
一方で、「まだ3年」しか過ぎていないといふのに、放出された放射能は、ガレキなどの廃棄物とともに日本中に拡散し、大地から農作物へ、海水から魚貝類へと、食物連鎖によって私達人間に音もなくしのびよっています。

「祖先から受け継いだ田畑を、このまま見捨てるわけにはいかない。」…故郷を愛する人々が、いよいよ「福島復興・農地再生」に向けて、動き出しました。

「フクシマ菜の花プロジェクト」のスタートです。

放射能に汚染された農地で、菜の花・ひまわり・大豆などを栽培し、コンバインで収穫、食用（もちろん放射能ゼロ）の油を搾り取り、油カスや茎・葉はバイオマスとして活用しようという一大プロジェクトです。（p2・p3・p6・p7・p12参照）

皆様も是非、この壮大なチャレンジに注目し、このプロジェクトを支援してください。（神野 英樹）



〒466-0064 名古屋市昭和区鶴舞 3-8-10 愛知労働文化センター B1

NPO 法人 チェルノブイリ救援・中部

銀行 名：三菱東京UFJ銀行 名古屋営業部（店番号150）

口座番号：普通 6949211

口座名義：特定非営利活動法人 チェルノブイリ救援・中部 理事長 原 富男

郵便振替：00880-7-108610

TEL / Fax：052-732-7172（月・水・金 10:00～17:00）

ホームページ：<http://www.chernobyl-chubu-jp.org>



チェルノブイリ救援中部

☆とどけ鳥事務所の現状

秋の忙しさを切抜けた後、11月後半からは検体持込み数も一段落しています。

秋以降は、野菜類全般と、柿・ゆず・みかん・キウイ等果物類の測定が多くあり、相双地区が自然豊かな地域であったことがしのばれます。南相馬市の運営する測定所(9ヶ所)の測定情報(約15,000検体)を入手し、概ね分析をして、年末に市へ報告しました。現在グラフ化をしており、とどけ鳥のHPにて2月上旬に公表する予定です。

☆「南相馬農地再生協議会」発足

10・11月と、「菜の花会議」を開催して、今後の「菜の花プロジェクト」の打合せをしてきました。12/11に開いた第3回会議で、「南相馬農地再生協議会」を発足することが合意され、代表として杉内清繁さんが選出されました。協議会の目的は、

- ①放射能によって汚染された農地に対する、菜種を利用した除染方法の確立とその普及
- ②菜種などの加工用農産物の生産・流通・販売による、農業経営体の再建
- ③農業とバイオエネルギーの連携の実現(菜種油を利用したバイオディーゼル燃料の生産と、油粕などのバイオマス原料を使用したバイオガスの利用)
- ④複合的な問題解決を図るための、適切な組織体制・効果的な社会的普及体制の構築

当面の活動は、昨秋播種した12ヘクタール強の菜種収穫時に必要な、汎用コンバインの入手です。年末・年始に、県農水関係部署・市農水課に接触し、農政復興事業予算で適合する助成金制度の確認作業を行っていますが、菜種油の生産加工は農水省、バイオディーゼル燃料・バイオガス生産は経産省・環境省と、緊急時の復興予算でも縦割り行政が貫かれており、思うようには進んでいません。しかしながら、6月中旬以降から始まる収穫作業に不可欠の汎用コンバインは、是が非でも入手しなければなりません。協議会結成時にも、全員で導入の確認を行っています。(参加者は、チェル救が行っている「コンバインキャンペーン」に、とても勇気づけられています。)

協議会を組織強化し、活動の加速化を図って行きます。

☆南相馬市の現状

市が昨年8月末～9月上旬に行った「市民意識調査」(市全域)を発表しました。

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| ①日常生活での不安や心配は？(複数回答可) | ②生活改善に必要な施策は？(複数回答可) |
| *放射線による人体への影響 62.7% | *放射線の詳細な情報や知識の周知 52.4% |
| *体調・健康面(放射線以外) 42.1% | *通院・入院等医療サービスの充実 50.3% |
| *賠償・補償金問題 38.2% | *高齢者福祉サービスの充実 35.1% |
| *医療・福祉サービス 35.7% | *商業施設の再開 33.3% |
| ③今後の居留意向 | *健康診断・相談等健康管理支援 31.0% |
| *市内で現在と同じ地域で暮らしたい 47.0% | ④市が特に力を入れるべき施策分野(2つ選択) |
| *震災前と同じ地域で暮らしたい 18.2% | *医療・健康・福祉 54.8% |
| *以前と異なっても市内で暮らしたい 5.6% | *原子力災害の克服 40.6% |
| *県内の南相馬市以外で暮らしたい 5.1% | *インフラ充実 31.4% |
| *県外・海外で暮らしたい 9.2% | *環境にやさしく・防災に強く 23.2% |
| *分からない 10.6% | |

☆第7期放射線量率マップ作成の測定作業日が決まりました!! ☆

春の測定日程が決まりました。今回で、南相馬市は第7回目、浪江町は第3回目になります。この活動(測定・マップ作成)は、三井物産環境基金の助成を受けて行ってきましたが、今回の第7期をもって助成金は終了します。チェル救は、秋以降も年2回の測定を継続して行く覚悟です。そのための助成金申請も行っていますが、未決定です。より一層のご支援を、お願いいたします。

第7期の1回目(第14次)は、4月18日(金)～21日(月)

2回目(第15次)は、4月26日(土)～29日(火)です。

是非ご参加ください。(詳細は同封のチラシをご覧ください。)

2月訪問団スケジュール (神谷 俊尚)

2月7日から、ドイツ・ウクライナへ行く事となりました。きっかけは、昨年9月のスタディツアー参加者から、とどけ鳥事務所でいろいろ話を聞く中で、南相馬農地再生協議会の杉内さん、奥村さんが「是非一度現地を見てみたい、行くときは声をかけて…」と強い要望があったことです。

「2月に毎年訪問団が行きますが…寒いですよ…」と答えたら、「農作業もない時期なので…行きます！」と、とんとん拍子でウクライナ行が決まりました。事前の話し合いの中で、せっかくウクライナへ行くなら、ドイツに寄り、再生可能エネルギーの視察もしたいと話が広がって行きました。

復興に結びつく「鍵」を探しに・・・



(杉内 清繁)

福島第一原子力発電所から北へ「20.5 km」離れた位置に、私の住

家があります。2011年3月11日、予想もしなかった自然の脅威は、大地の激震と海からの荒れ狂った津波によって、突如として無惨な光景を生み出していました。南相馬においては、死者・行方不明者合わせ 1,072 人、住家被害 4,437 世帯の大災害となり、さらに追い打ちをかける形で福島第一原発の暴発事故が発生、予期せぬ放射能汚染という、非常に危険な状況を背負ってしまう結果となってしまいました。為す術も全くない中、放射能のもたらす影響に脅

え、今も災害時の姿をとどめた状況を目にする時、私どもには苦しく悲しい思いが込み上げてきます。

大震災発生後の5月に、私は有機農業を通じて交流のあった栃木県の稲葉先生を訪ね、福島の現状を話しながら、これから先予想される諸問題等に思いを巡らせ、油脂植物と向き合う分野に辿り着くことになりました。それは、菜種・ひまわり・大豆等の作物の持つ力を借りて、土壌中の放射性物質を吸収し、熟成した実を収穫したのち、純粋な油を精製することにより「農地除染」と「安全な食油」の位置付けを確立し、地域復興の源に繋げてゆく取り組みです。この方法は、24年も前からウクライナの救援事業に尽力され、社会体制の混乱が続く中、ナロジチ区の現地に出向いて農地除染とバイオエネルギー生産に取り組まれた、河田昌東先生のプロジェクトの延長線上にあります。今福島は、原発事故発生から4年目が始まろうとしています。20キロ圏内は何一つ復興に向けた取り組みが見えていません。そして、私たち20キロ圏外の地帯も、稲の試験栽培を試みっていますが、そのデータからも放射能の影響が続いていることがわかり、主食である水稻栽培の広がる水田地帯の汚染は、これからも心配が予想されます。

今後 原因究明を見守りながら確かな自然環境を取り戻すまでには、まだまだ時間が必要に思えてなりません。放射能は、予期せぬ中で全てのものを切り刻んでしまい、再生には気の遠くなるほど時間の要するものから 再生がきかないものなど、数多くの難題を抱えてしまいました。

今こそ、再度歴史に残る悲惨な放射能被災から目を逸らすことなく、チェルノブイリ福島原発事故の惨状を重く受け止め、脱原発にいち早く取り組む社会、先進的地域循環環境社会(地産地消)、そして、自然環境の復興に結び付く「鍵」探しが大切であると考えております。

【2014年2月訪問団 ドイツ・ウクライナ日程(案)】

2/7 (金)	10:25 東京(成田)発⇒14:05 フランクフルト着 17:20 発⇒18:00 シュトゥットガルト着	シュトゥット ガルト (泊)
2/8 (土)	シュトゥットガルト発⇒アウトウリッゲン着発⇒インメンディングン着 マウエンハイム・BGプラント視察。 インメンディングン⇒ミュンヘン(列車移動)	ミュンヘン (泊)
2/9 (日)	13:05 ミュンヘン発⇒16:25 キエフ着	キエフ (泊)
2/10 (月)	チェルノブイリ原発視察(プリピャチ・30 キロ圏内に住むサマショーロ訪問・廃屋視察他)	ジトミル (泊)
2/11 (火)	ジトミル農大・ホステージ基金・消防局訪問	ジトミル (泊)
2/12 (水)	「ジトミル農民協会」との面会。学校訪問。 コーラステンに移動	コーラス (泊)
2/13 (木)	ナロジチ視察・BG/BDF見学・農場訪問・土地管理ステーション・菜の花畑視察	コーラス (泊)
2/14 (金)	食品放射能測定視察・ナロジチ地区中央病院・ナロジチ町幼稚園訪問。キエフに移動	キエフ (泊)
2/15 (土)	キエフ観光(チェルノブイリ博物館等) 17:15 キエフ発⇒18:50 ミュンヘン着 19:55 発	機中 (泊)
2/16 (日)	⇒15:40 東京(成田)着	

「友情のクリスマス」カードキャンペーン 2013 結果報告



昨年の秋から始まったクリスマスカードキャンペーン。今年度は、ウクライナ・福島あわせて **2,927** 枚のカードが集まりました。学童の子ども達や学祭で呼びかけてくれた大学生、授業でチェルノブイリについて学んだ中学生など、たくさんの学生さんたちが今年も参加してくれました。他にも、勤務先やご自宅でカードを描いてくださったり、教会



でも呼びかけて集めてくださったりもしました。また、毎年たくさんの折り紙作品を送ってくださる方や、発送作業にボランティアに来てくださった方々など、ここには書ききれないほど本当にたくさんの方々のご協力のもと、キャンペーンを行うことができました。皆様、本当にありがとうございました。そして、今回のキャンペーンを一手に担ってくれた諏訪さん、お疲れ様でした！今年度は、ウクライナからも日本向けにカードや絵を送ろうと、「友情のクリスマス」というキャンペーンが行われ、福島の学校や保育園などに

<今年度の配布先は...>

- | | | |
|---------------|---------------|-------------------------------|
| ●ホステージ基金 | ●デニシ孤児院 | ●ふくしまインドパーク南相馬 |
| ●ジトーミル州立小児病院 | ●dovbysh 特別学校 | ●グループホーム田園 |
| ●ジトーミル市立小児病院 | ●青葉幼稚園 | ●特別養護老人ホーム万葉園
・グループホームたんぼぼ |
| ●ナロジチ地区中央病院 | ●原町みなみ幼稚園 | ●特別養護老人ホーム竹水園 |
| ●ナロジチおひさま幼稚園 | ●さゆり幼稚園 | ●ホームズくにみの郷 |
| ●ジトーミル 9 番学校 | ●原町聖愛保育園 | ●特別養護老人ホーム長寿荘 |
| ●ジトーミル 12 番学校 | ●北町保育園 | ●特別養護老人ホーム福寿園 |
| ●ジトーミル 25 番学校 | ●よつば保育園 | ●介護老人保健施設 長生院 |

贈られました。

こうして、日本とウクライナがつながっていることを実感できる場に携わることができて、とても嬉しく思います。ありがとうございました
☆ (兼松真梨子)

「クリスマスカードキャンペーン 2013」を終えて気づいたこと

まず、クリスマスカードキャンペーンにご協力してくださった皆さまに、心から感謝いたします。

このキャンペーンを終えた現在の率直な感想は、「無事にウクライナと福島にカードを届けることができよかったなあ」とホッとしています。インターンを始める前、「チェル救では、団体の発足当初から続いているカードキャンペーンを任されるだろう」と、NGO センターの方から説明を受けました。その時、「結構大変そうだけど大丈夫かな・・・」と不安を感じたことを覚えています。しかし、実際にチェル救でのインターンを始めると、何かあったら遠慮なく相談できる事務所の雰囲気と、何よりも皆さまが心を込めて書いてくださったクリスマスカード(私宛ではないのですが...)によって、すぐに緊張は解け、たくさんの人に助けていただいて、トラブルもなくウクライナと福島へカードを送り終えることができました。カードキャンペーンに関わってくださった皆さまに、改めてこの場をお借りして感謝申し上げます。

カードキャンペーンを通して、私はすごいことに気づきました。皆さまが送ってくださったカードは、送り届けられた子ども達はもちろん、そのお父さんやお母さん、たくさんのカードが入った箱を受け取った施設の方、カードを届ける準備をしたボランティアやスタッフにも、心が温まる気持ちを伝えているなあ...ということです。

だからこそ、このキャンペーンは 23 年間も続いているのではないのでしょうか。さて、残されたインターンとしての仕事は、今度は私からカードを作った方に心が温まる気持ちを伝えるべく、カード配布の様子の写真も添えて「お礼状」を送る事です。一方通行のキャンペーンで終わらないのが、チェル救のクリスマスカードキャンペーンなのです！こんなふうに、これからもカードキャンペーンが続いていきますように.... (諏訪ひかり)



<発送を待つ、カード満載の箱たち>



静岡サレジオ小学校を訪問しました！

今年も、静岡サレジオ小学校のクリスマス会にご招待をいただき、行って参りました。クリスマス会では、4年生の創作オペレッタと6年生による聖劇、舞台には上がらない生徒も一緒になって歌を披露してくれました。

子ども達の演技力と劇のクオリティの高さに、本当に驚きました！一人ひとりにセリフがあり、それが子ども達の希望だということからも、なんて素直な子ども達なのだろうと感じずにはいられませんでした。心が洗われたような、そんな気分でした。

6年生の聖劇では、サレジオ小学校の子ども達が、どんな団体にどのような気持ちで支援をしているのか、スクリーンを使って紹介してくれました。昨年、静岡サレジオ小学校はチェル救の他に、「和ring-project」という団体にも支援をしていました。東日本大震災によって被災された方が、自宅や自宅周辺の瓦礫を拾い集め、仮設住宅を中心に、ひとつひとつ手作りでキーホルダーを作っている団体です。

『震災を忘れない』という子ども達の想いが伝わってきたのと同時に、この年代でちゃんと現実を見つめ、受け止めて、行動までしていて、「この子達すごいなあ(上から目線でごめんなさい)」と、とても印象に残りました。クリスマス会の最後には、静岡サレジオ小学校後援会と児童会から、寄付金をいただきました。子ども達が給食を少し節約して貯めた大切なお金です。それを受け取った私は、緊張で「有効に使わせていただきます」としか言えなかったのですが、チェル救発足当初からご支援をしてくださっていることに心から感謝しています。

クリスマス会の後、校長先生やシスター、ring-projectの代表者の方からいろいろなお話を聞きました。静岡まで一人旅、行きの新幹線ではとんでもないミスをしてしまいました(チェル救 HP、12/25のインタビューブログ参照！)が、とても有意義な時間を過ごすことができました。ご招待いただき、本当にありがとうございました。(諏訪 ひかり)

ステファニ・レナト賞記念イベントに参加して

12月7日、名古屋能楽堂にて行われた「ステファニ・レナト賞 10周年記念シンポジウム」に出席しました。「ステファニ・レナト賞」は、名古屋NGOセンターの初代理事長で、2003年に東ティモールでお亡くなりになったステファニ・レナトさんの理念に基づいて設立された賞です。チェル救は2006年にこの賞をいただきました。今回は、過去の受賞者を一堂に会してのイベントで、南アフリカ支援をされ日本で一番ネルソン・マンデラ氏に近いと言われる津山直子さんや、米寿ながら現役でネパールの教育支援をされている近藤愛子さんなど、多彩な顔ぶれが集まりました。シンポジウムのほか10分間の活動紹介もあり、私にとって初めてパワーポイントを使用してのスピーチでした。このスピーチのために、毎晩自宅で練習する日々でした…。



世界各地の未曾有の自然災害の多発もあり、NGOの活動は多忙を極めています。それでも熱意と信念をもって支援に取り組まれている皆さんの姿勢は、心打たれるものばかり。レナトさんは生涯「小さい人々」つまり弱者に寄り添っておられました。災害・紛争・事故のしわ寄せの多くが、小さい人々に向かいます。その人たちに手を差し伸べる活動を讃えるこの賞をいただくことの誇りを、改めてかみしめました。10年を以て賞を終了しようとした矢先に、資金不足を報じた記事を読まれた方から資金援助の話があり、急きょ賞の継続が決まったという、すばらしい逸話もありました。

私達「救援・中部」も、賞に恥じぬ活動の継続に奮闘したいと思います。

(市原 佳代)



「にんじん舎の会」 バイオガス工事に着手しました！

福島県郡山市にある、「障害者」が通い生活費を稼ぐ場所である作業所「にんじん舎の会」で、1月6日より「バイオガス発生装置」と「放射能吸着装置」の工事が始まりました。

「にんじん舎の会」は、これまで主に養鶏と野菜を生産し収入源としていました。ところが、福島第一原発事故の放射能により農地は汚染され、野菜や卵までもが汚染されてしまいました。また、肥料として販売していた鶏糞からも放射能が検出されたため、今まで通りの「循環する農業」が成り立たなくなりました。

今までは、会津地鶏の卵を販売し、廃鶏は無添加・無着色のソーセージに加工してきました。鶏の餌は魚屋・パン屋などから残渣をもらって配合したものを食べさせ、平飼いで自然な卵が自慢でした。鶏糞は、もみ殻や米ぬかと合わせて発酵させ、臭いのない豊かな肥料として販売してきました。また、黒米・カブ・大根・ナス・トマト・モロヘイヤ・ブロッコリーなどを栽培し、安全な野菜として販売してきました。さらに、使用済み天ぷら油を回収し、バイオディーゼル燃料(BDF)も作ってきました。

「循環する農業」が成り立たない放射能被害！

ところが、原発事故で野菜は汚染され、鶏舎の敷き料にする糞も汚染され、今まで通りではやっていけない状況となりました。このため、野菜畑・鶏舎とも表土を削り安全な土に入れ替えた後、ビニールハウスを建て放射能の影響を少なくする工夫をして凌いでいます。鶏舎の敷き料として使ってきた糞も汚染されているため、今ではやむを得ず古畳をほぐして使っている状況です。「循環する農業」が、一転「循環できない農業」になってしまい、放射能の流れを遮断する必要に迫られました。

昨年、チェルノブイリ救援・中部に相談が寄せられ、当会の河田と原が郡山に出向き、対策を話し合ってきました。その結果、鶏糞に含まれる放射能を吸着し、吸着し終えた廃液は液肥として使い、発生するメタンガスをガソリン発電機の燃料として利用し、発電を行うことになりました。この装置は、「バイオガス発生装置」とゼオライトによる「放射能吸着装置」で、ウクライナで実験的に作った装置と同じ10 m³の装置です。しかし、小さな装置でもバイオガス装置を業者に依頼して造るとなると200万円近くするため、「一時は費用が足りずあきらめたのか」と思われましたが、どうしても「放射能の流れを断ち切りたい！」という強い思いから、昨秋になって、私「便利屋・原」に工事の依頼がありました。

除染作業の需要増で、掘削機が借りられない！

小型のバイオガス装置を造る業者は日本には少なく、私が作ることになったのですが、普段の仕事が連日続き、長野県伊那にいる限り他の仕事が入ってきてしまい、いつまでたっても着手できません。そこで、思い切って新年の1月6日、長野県の伊那を家族そろって離れることにしました。

工事は基本的に私達夫婦2人が行う事とし、家に留守番もいないため、猫の子ビ太も同行しての工事です。2トンのぼろダンプカーに工事道具や材料・衣類・食料等を満載し、郡山に向かいました。翌7日は朝一番で、「にんじん舎の会」サービス管理責任者の和田さんと、設置場所の確認をしました。バイオガス工事の最初の仕事は掘削です。まずは、深さ4m直径4mの穴と、深さ3m縦4m×横3mの穴を2つ掘らなければなりません。朝から、掘削機大型バックホーのレンタル会社10軒ほどに電話してみるのですが、どこも「除染作業で忙しく貸せない！」という返事で、最初から暗礁に乗り上げてしまいました。結局レンタル会社からは借りられず、「にんじん舎の会」の職員の親で農業をされている方から、小振りのバックホーを借りることができました。(ありがたい！)

ところが、バックホーをお借りした翌日、運転して10分後に石に乗り上げ、左のキャタピラが完全に外れ

てしまいました。仕方なく翌日修理屋さんに依頼、なんとか直ったものの、その30分後に今度は右側のキャタピラが外れ、これはグリスガンとグリスを買いに行き自力で直しましたが、前途多難な出発です。深い穴を掘らなくてはなりません、バックホーの腕が短いので、真上から掘るだけでは地下4mまでは掘れません。また、掘削した土を置いておく余分な場所也没有。穴の周囲に積み上げるしかないのです。そこで脇から斜めに穴に向かって掘り進める方法を併用して穴を掘り上げました。しかし、ここでも問題発生！掘削した土を置いておく別の場所がないため、2トンドンプカーに載せ、穴の周囲に移動するのですが、ハードな運搬に耐えられずダンプカーのクラッチ盤が焼けてしまったのです。仕方なく修理に出しましたが、5日間かかり修理代も12万円かかってしまいました。



寒波が仕事を助ける 通路の「ぬかるみ」凍結で解消！

連日のダンプカーでの運搬による通行で、これまで車の通らなかった通路はぬかるみはじめ、ダンプカーのタイヤが空転し、日に2度3度とバックホーで救出しなければならなくなりました。「これでは、碎石をたくさん入れてぬかるみを解消するしかないかな」と考え始めていたとき寒波が襲来、昨日までのぬかるみは固く凍結し、スムーズに通行できるようになりました。

8日目で掘削完了！ 16日目で発酵槽底部基礎完了！

予定より大幅に遅れた8日目、ようやく加圧槽と発酵槽の掘削完了。発酵槽の底の部分を、「お椀の底」のように湾曲させる型板を作って成形します。その後から碎石を入れ均し転圧します。その上に、捨てコンクリートを打ち、メーカーから直送してもらった断熱材を敷き、更に発酵槽の底のコンクリートを打ちました。底の部分のコンクリートを打ち終えたのは、工事開始から数えて16日目となってしまいました。

工事14日目の日曜日には、「難民を救う会の」大原さんが手伝いに見え、16日目には「にんじん舎の会」から5名がシャベルを持ってコンクリート打ちに参加してくださいました。自分でミキサーを使ってコンクリートを練るのは、自分のペースでできるからよいのですが、ミキサー車で投入する場合は、夫婦2人ではパワー不足になります。その上、「ミキサー車の運転手さんを待たせてはいけない」という思いも重なるので、体も疲れますが精神的にも疲れます。ここまでの工事は、予定よりも大幅に時間がかかってしまっています。しかし、何はともあれ第一段階の掘削は済み、基礎となる発酵槽の底部分はでき上がったのでした。これからは、壁の型枠を置いて固定し、壁部分の生コンを入れ、ドーム部分を作るという工程になります。今回の工事は最初から、バックホーが借りられず、ダンプカーが故障するなどのアクシデントが続いて、余裕を持った工事ができていません。第一段階を終えたところで少し気分転換し、これからは気持ちに余裕を持って工事を進めたいと思っています。



「放射能の循環を断つ試み」への期待！

工事12日目の1月17日、「にんじん舎の会」の事務所で「スタッフにバイオガスについての話をしたい」と言われ出かけました。和田さんによれば、私が滞在する期間中に、何回かバイオガスの話をしたいとのこと。和田さんと職員の酒井さんは、昨年、埼玉県で「バイオガスキャラバン」を主宰する桑原さんのバイオガスを見学に行ったということで、相当熱が入っています。参加者は、野菜栽培担当者、デイサービスの看護師、鶏担当者、事務担当者など様々ですが、放射能の悪い循環を断ち切るバイオガス装置への期待を熱く語っていただきました。

私としても3月末までの工期中、丁寧な仕事にこそころがけ、「循環する農業」を取り戻す手伝いをできたら…と考えています。（「郡山奮戦記」は続く…）

いつまでも止まらない汚染水問題に、やっと政府が乗り出した。「何でも処理できる」と原子力村の専門家が豪語した ALPS でも、どうにもならないのがトリチウム水である。IAEA までが、薄めて海に流すとか、アメリカでは大気中に放出しているなどの案が飛び交い、未だに解決策は示されない。そもそも、「トリチウムを処理するなどできない相談である」ことを、政府は明言すべきだ。それはなぜなのか。

トリチウムって何？

トリチウム (Tritium : 略号 T) は日本語では三重水素と呼ばれ、化学的性質は水素 (H) と同じである。水素は、原子核に一個の陽子 (P)、その周りを一個の電子 (e) が回っている、最も小さい安定元素である。トリチウムは原子核に一個の陽子 (1P) の他に 2 個の中性子 (2N) を含み、不安定なため中性子の 1 個が電子を放出して新しい元素 (ヘリウム 2 : 2He) になって安定化する。この時放出される電子がベータ線である。トリチウムの半減期は 12.3 年である。原子炉の中では、中性子の働きで絶えず生産されている。一方、我々が生きている生活圏にもトリチウムは存在する。過去の核実験や宇宙線の影響で、地球上の水の中には 1~2Bq/L 程度のトリチウムが含まれている。

トリチウムはなぜ除去できない？

化学的性質が水素と同じで、トリチウム (T) を含む水 (T-O-H) と通常の水 (H-O-H) が区別できないからである。セシウム 137 やストロンチウム 90 など多くの放射性物質の除去には、その化学的性質を利用し吸着や濾過などを行い除去する。しかし、通常の水とトリチウム水は、こうした方法では区別できず除去できないのである。その結果、沸騰水型原発では原子炉内で「年間 20 兆 (20×10^{12}) Bq」のトリチウムが生成されるが、その殆どを放出可能な「年間 22 兆 (22×10^{12}) Bq」という海洋放出基準が定められている。

青森県六ヶ所村の再処理工場が稼働すれば、年間 1,900 兆 (1.9×10^{15}) Bq を大気中に、1.8 京 (1.8×10^{16}) Bq を海中に放出する予定である。トリチウムの放出基準は事実上存在せず、現実追認なのである。

トリチウムの何が問題か？

トリチウム水は通常の水と同様、経口や呼吸・皮膚を通じて体内に入る。体内では、普通の水と同様に、血液や体液を通じて細胞内の様々な代謝反応に関与し、タンパク質や遺伝子 (DNA) の中の水素に取って代わる。

こうして細胞の構成成分として取り込まれたトリチウムは容易に代謝されず、トリチウムがベータ線を出して崩壊すると、化学結合が切れてその分子も壊れる。

このように体内の有機物に取り込まれたトリチウムは OBT (Organic Bound Tritium) と呼ばれ、セシウムのように単に元素として体内に存在し放射線を出す放射能とは、全く別の挙動をする。トリチウムを取り込んだ細胞の染色体が壊れることは、よく知られた事実である。その結果、先天異常や死産・流産などが起こることも指摘されている。セシウムなどと違って、母親の胎盤はトリチウム水と普通の水を区別できず、胎児に取り込んでしまうからである。

このように、トリチウムの効果は崩壊時に出すベータ線の被曝だけではなく、一般的な放射性物質による照射被曝とは異なる次元の、「構成元素の崩壊」という分子破壊をもたらす。いわゆる照射被曝は確率論的現象だが、DNA の破壊はトリチウムの崩壊とともに必ず起こる現象である。

米国カリフォルニア州のローレンス・リバモア国立核研究所の T. ストラウムらの研究 (1991~1993) では、トリチウムによる催奇形性の確率は、致死性ガンの確率の 6 倍にのぼる。

このように、トリチウムは高レベル廃棄物とともに、技術的に処理できない「原発のもう一つのアキレス腱」である。 (河田)

〈2014年 企画案内〉

…「3.11東日本大震災・福島原発事故」から、まもなく 4年目を迎えるにあたり…

◎ 東日本大震災3周年 犠牲者追悼式

【企画趣旨より】 東日本大震災から3年の2014年3月11日、産官学民あげて愛知・名古屋で犠牲者追悼式を営むことは、犠牲者追悼への大きな意味とともに、被災者への応援メッセージにもなり、南海トラフ巨大地震への備えに対する啓発にも意味を持ちます。また産官学民あげて様々な支援団体が、立場や考え方を超えて、一堂に会することも大きな意義があることと考えます。

主催：東日本大震災3周年犠牲者追悼式あいち・なごや実行委員会

日時：2014年3月11日（火）正午～19:00頃

会場：久屋大通公園 久屋広場（もしくはエンゼルパーク）

内容：午後2時46分 黙禱、約2万本のキャンドルを灯す、献花など

*なお、第2回実行委員会が2月4日に開かれ、さらに具体的な内容が詰められます。実行委員会に参加する団体・個人は、実行委員会メンバーとして名を連ね、ゆるやかに連携します。

◎ 木田節子さん《福島県富岡町・原発いらない福島の女たち》のお話会（+プレ企画）

主催：未来につなげる・東海ネット

日時：2014年3月11日 15:30～17:20

会場：名古屋YWCA・ビッグスペース

プレ企画：DVD上映「木田さんと原発」 13:15～

*上記追悼式会場の近くにて同時進行的に行われ、午後2時46分黙禱

に合流し、名古屋YWCAでの「お話会」の後、再びキャンドル・ナイトを久屋広場にて一緒に行います。



◎ 「歴史の流れを変えようー原発再稼働反対・戦争への道を止めよう・未来のために民主主義を守ろうー」～三宅洋平コンサート・マルシェほか～

【企画趣旨より】 東日本大震災に伴う東京電力福島第一原発の爆発事故からもうすぐ4年目になります。地震や津波に加え原発事故の傷跡もまだ癒えず、福島はじめ多くの被災地では人々が困難な状況と戦っています。しかし現政権は選挙の大勝を良いことに、埒らない被災地復興を置き去りにしたまま被災者の願いを無視し、原発の再稼働だけでなく、特定秘密保護法案の強行採決、「集団的自衛権行使容認」など立て続けに打ち出し、民意と離れ歴史に逆行する一方的な政治を行っています。このままでは新たな原発事故や戦争に巻き込まれる事態さえ危ぶまれます。今、多くの国民が自ら声を発し民主主義の回復を行わなければ、子ども達の未来を危うくすることは避けられません。3月11日は震災・原発事故の被災者の追悼の日とし、それを出発点として今年6月に、「原発再稼働反対、戦争への道を止めよう、未来のために民主主義を守ろう」を掲げて、若者も高齢者も、女性も男性も、保守も革新もお互いの壁を乗り越えて集まり、多くの人々の参加のもと、政府に私たちの声を届けたいと思います。

主催：「歴史の流れを変えよう」実行委員会

呼びかけ団体：チェルノブイリ救援・中部／未来につなげる・東海ネット（2014.01.21現在）

日時：2014年6月1日（日）10:00～16:00（予定）

会場：名古屋・東別院ホールほか

内容：三宅洋平氏（ミュージシャン、レゲエ・ロックバンドのボーカル／ギター。日本アーティスト有識者会議 NAU、昨夏の参議院議員選挙で、緑の党から全国をめぐる選挙フェスを敢行し、17万を超える票を集めたことで話題！）

*第1回実行委員会が、2月2日（日）13:00～17:00 名古屋市教育館にて開かれます。

具体的内容や今後の準備などについて話し合い、多彩なアイデアで内容豊かな企画にしたいと思います。多くの団体・個人の参加を呼びかけています。

（戸村 京子）

食品・土壌・水の測定結果から見えてくるもの

(池田 光司)

“放射能測定センター・南相馬「とどけ鳥」”の開設は2012年6月1日、開設以来1年7ヶ月となる昨年末の時点で、測定された食品・土壌・水などの検体数は5,500を超えました。1ヶ月あたり平均で290検体、1日あたり約20検体になります。ここで特筆すべきは、月平均の検体数が前半10か月は283体なのに対し、後半9か月は298体と、わずかですが増えていることです。これは、今でも南相馬の人々が、汚染と隣り合わせの状況にあることを示すとともに、「とどけ鳥」のみなさんの地道な測定活動が、市民の方々に認められてきたことを示しているのだと思います。



今回、この5,500を超える検体の測定結果を分析しました。貴重な測定結果に対して、分析は十分とはいえませんが、いくつか見えてきたことがありますのでご紹介します。なお、今回ご紹介する分析結果は、南相馬市で採れたものについて、また検体数が10体以上あるものを使って傾向を分析しました。

【分析結果】

1. 野菜

カボチャ・ジャガイモ・ホウレンソウ・ニラ・白菜・ナス・トマト・大根・キュウリ・ネギ・キャベツを比べた場合、野菜の種類による差はなく(統計的に差があるとは言えず)、同じ種類の野菜の中での差の方が大きくなっています。平均して0~10Bq/kg(測定では放射能が含まれているとは言えないレベル)が約8割、50Bq/kg(政府の定めた安全基準100Bq/kgの半分)以上はわずか2%です。どの種類の野菜も、多くは放射能で汚染されている心配はありませんが、その中にポツンと汚染されているものがあるといった状況です。

2. 山菜・果物・きのこ

タケノコは50Bq/kg以上、ゆずは80%以上、ワラビは43%、柿は20%です。一方、0~10Bq/kgの割合は、タケノコ3%・ゆず0%・ワラビ14%・柿10%です。山菜・果物は総じて汚染度が高く食用に適さないものが多いですが、わらびや柿など種類によっては汚染度の低いものが見つかる可能性があるといった状況です。イノハナは地元で珍重されてきた「きのこ」ですが、すべて1,000Bq/kg、以上ありました。残念ながら、食べることはできません。

3. 米

米は、試験的に栽培されたものを中心に測定がされました。玄米では、50Bq/kg以上が30%、10~50Bq/kgが50%、0~10Bq/kgが20%、白米では50Bq/kg以上が5%、10~50Bq/kgが50%、0~10Bq/kgが45%といった状況です。汚染を防ぐ方法を試行錯誤しながら探っている状況が、数字に表れていると思います。白米に精米すると、放射能を多く含む外側の糠(ぬか)になる部分が削られますので、放射能の値は下がります。

4. 水

水道水・井戸水とも、放射能は検出されていません(測定検出限界値以下です)。なお、井戸水はラドン(天然に存在する放射性物質)に由来した放射性物質が含まれていることがありますので、沸騰処理をして放射性物質を飛ばしています。放射性セシウムはかなり強固に土に付く性質があり、ダムや川の水からも放射能は検出されていません。

5. 土壌

土壌は採取場所や採取方法が異なるため、この値ですとは言いきれない状況ですが、平均すると1,600Bq/kg程度です。少し専門的になりますが、対数分布を取ると左右対称のきれいな分布となり偏りがありませんので、測定値にさまざまなばらつきは含まれますが、平均値は意味のある値になっています。通常ですと数十Bq/kg程度ですので、土壌はかなり汚染された状態にあります。

以上、分析結果を紹介してきました。この結果は、南相馬の方々が依然として汚染と隣り合わせの状況にあることを示していると言えます。まだまだ“放射能測定センター・南相馬「とどけ鳥」”が必要な状況にあります。引き続き、ご支援をよろしくお願ひします。

講演後に思うこと

講師：蟹江町在住 黒津 忠勝

私に福島歴史・文化を改めて考える機会を与えてくださった皆様に感謝します。

人間は育った風土（環境）の影響を強く受けるものです。会津には戊申の戦争から146年たった今でも長州（山口県）と和解できない人もいます。会津の戊辰戦争での戦死者は、靖国に祭られていないのです。痛みは傷を受けたものにしかわかりません。その一方で、商人の町郡山市は安積原野の開発を国のプロジェクトでやり遂げ発展をみえています。会津に公立法人の会津大学が設置されたのは、1996年（平成8年）になってです。戦後（太平洋戦争）も福島県は国立大学の医学部・理工学部設置を国に申請しましたが、認可はありませんでした。

さて、県民性や気性についてですが、このことは外から見た方がよくわかるものです。幸いなことに愛知県生まれの歴史学者丸井佳寿子さんが福島県の県民性についておまとめになっていますので引用して紹介します。

『明治以降の福島県民は、中央の政治的・経済的・文化的動向に敏感な反応性をもっていた。よくあらわせば時代の動向に敏感であり、進取の気性として具体化される。中央を意識し、反骨精神をもち、不屈の思いで偉業を成し遂げた人物をうみだしもした。しかし他面その敏感さは独自の道を選ばず無難に大勢に流される、もしくはむしろ体制維持の先頭を走りかねない保守性となって表れる場合もある。』

福島県は、県域が広く自然的条件・地理的条件が大きく異なる三つの地域（浜通り・中通・会津）からなっています。江戸時代に会津を除いて浜通り、中通り地方は政治的配慮から支配が細分化され、歴史的経過も多様ということに起因して福島県では、まとまった県人氣質、県民性を語りにくいです。

ところで、アベノミクスの経済効果や東京オリンピック誘致の喜びの影で福島の報道は減りフクシマは忘れ去られようとしています。昨年は避難先から福島に帰還する人が増えました。母子で避難した人が家庭崩壊の危機に瀕して戻る選択しかなかったのだと思います。私は、政府によってなし崩し的に現状を容認させられていくことが続いていることに危惧を感じております。

アピール不足でしたが福島県は風光明媚です。“高村千恵子がいう本当の空”があります。どの地方にも温泉が湧き出ております。仏教文化が徳一大師によって花開きました。能因法師や西行、芭蕉、正岡子規など多くの文人らが古から来訪しています。福島県は西の人にとってはミステリーゾーンです。

愛知・東海の皆さんに是非福島県を訪れてほしいです。皆さんに会えて有意義な一日でした。

第7回 チェルノブイリ/フクシマ講座のご案内 <お申し込みは事務局まで>

■日時：2月16日(日) 午後1時～4時 / 託児あります(要：予約申し込み)

■場所：東生涯学習センター 料理室

(地下鉄「新栄町」①番出口より徒歩5分/地下鉄「高岳」③番出口より徒歩8分)

■参加費：2,000円(材料費込み) / ほっきご飯・こづゆ・いかにんじん・鮭の粕漬けなど、福島県の郷土料理

■講師：小林友子さん 紺野佳奈子さん

避難指示制限解除準備区域となった、南相馬市小高区の「双葉屋旅館」の若女将のお二人(現在休業中)。震災から今までの思いや、旅館再開への意気込み、そして今の南相馬について、お話しいただきます。

事務局便り

年明け早々、事務局は、2月のドイツ・ウクライナ訪問団派遣準備と助成申請に忙しい。派遣団にはチェルノブイリメンバーの他、南相馬での菜の花PJに向けて結成された「南相馬農地再生協議会」メンバーやその関係者も参加する。また助成申請は、赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」へ、「放射能測定センター・南相馬基盤強化・測定・マップ作成経費」で申請。「東海地域NGO活動助成」へは、「チェルノブイリ/フクシマ講座運営経費」で申請した。

助成といえば、吉報も入った。去年暮れ「アルシュ(自立を支援する会)」に申請した「カードキャンペーン」経費10万円(満額)が採択された。チェルノブイリ原発被災地と、東電福島第一原発事故被災地の子ども達への、日本・ウクライナ双方向からの心の支援に対してである。長きに渡りカードキャンペーンを継続してきた意味を、深く実感しながら申請書を書いた。採択され素直に嬉しく、ありがたい。

3月には、3年目の「3・11」が巡ってくる。この日に、名古屋・栄で「東日本大震災3周年犠牲者追悼式」が開催される。その折、式典開催場所近くの名古屋YWCAで、チェルノブイリ未来につなげる・東海ネット主催で、木田節子さんの講演会を開催する。木田さんは、原発立地町の富岡町に暮らしていたが、事故後水戸での避難生活を余儀なくされ、その後「みどりの党」から立候補された方だ。

原発の真実、事故の真実を、あふれ出すように語られるだろう。式典参加後、木田さんの話を聞いてほしい。詳しくはちらしをご覧ください。(山盛)

福島産「食用菜種油」の紹介

日本産の食用菜種油は、心臓血管系の病気を引き起こす「エルカ酸(エルシン酸)」を含まない品種を栽培し、搾油されています。

菜種油は、揚げ物に使うと独特の風味があり、しつこい残油感がないので古来から食用とされてきました。「油を摂ると太る」と思い込んでいる人がいますが、油は食品群の中の第6群に属している身体に大切な食品です。

近年、日本の食生活は肉食が好まれ、高脂血症・脳血栓・動脈硬化などの病気が多くなっていますが、使う油を変える事で、病気の引き金となる原因を減らす事ができます。

ご紹介の「菜種油」は、フクシマ産菜種だけを使用した「遺伝子組み換えでない」自然食油です。私達の「放射能測定センター・南相馬(とどけ鳥)」で放射能測定を行っています。もちろん、「油」ですから放射能は含まれていません。購入代金は、「福島原発の放射能被災生産者に還元」されます。

ご希望の方は、チェルノブイリ事務所(月・水・金/052-732-7172)までご連絡ください。(美)



<1,000円/本(270g)>

編集後記

☆先日、某銀行を装ったフィッシングメールが来た。好奇心を抑え、ごみ箱へ。世の中のメールの6割以上がスパムらしい。奴らのための通信機能になっているのでは、と矛盾を感じる。(佳)

☆お取り寄せ通販で「半年待ち」だった商品が、かなり早目に我が家に届いた(歓喜)。品質の優れた商品なら、半年待っても入手したい。「福島産の菜種油」が、そんな人気商品になりますように!(美)

☆この2年間で、世界の覇権構造は激変した。終身制だったローマ法王の辞任、オランダ女王・ベルギー国王・イギリス女王達の世代交代、CIA長官ペトレイアスを始めとする軍事部門トップの更迭、世銀・米連銀など金融界トップの入れ替え…等々。残るは「秘密保護法」の強行採決などで右傾化を加速する、日本の安倍政権とその支配者達のみである。日本の歴史の流れを変えよう!(J)

〒456-0022 名古屋市熱田区波寄町 20-14

印刷「エープリント」

TEL・FAX (052) 871-9473